

平成29年度 天理中学校 学校評価 <教職員用>

平成29年度 天理中学校 学校運営計画			評価 A:きちんと取り組んでいる B:ほぼ取り組んでいる C:あまり取り組めていない D:全く取り組めていない	
	重点目標	目標達成の方策	評価	○成果 と △課題
信条教育	「よふぼく」教師であることを常に自覚して、積極的に生徒に働きかける。	1 教師自らが道を求め、折に触れ神様のお話を取り次ぐ。	B	朝の学校参拝でのおつとめ、中庭での大祭参拝、また春の廻廊拭きおやこひのきしん、夏のお茶接待ひのきしん、秋の街頭ひのきしんなど、生徒とともに意欲的に取り組むことができた。「おさづけの取り次ぎ」「お願いづとめ」など積極的な実践が多く場面で見られ、信仰心を伝えるという意識の高まりを感じた。教師自らが「よふぼく」「おたすけ人」という自覚を持ち、日常の学校生活の中で自然な形で信仰する姿をさらに多くの場面で反映できるようにしていきたい。
		2 朝の学校参拝を、生徒の手本となるようしっかりつとめる。	A	
		3 「おさづけ」の取り次ぎと「お願いづとめ」を積極的につとめる。	B	
		4 ひのきしんの活動に生徒とともに積極的に取り組む。	A	
生徒指導	積極的な生徒指導を行う。	5 規律正しい学級づくりのため、授業終始の挨拶指導の徹底を行う。	A	年度当初に教職員間で次のことを申し合わせ、生徒指導がスムーズに行えるようにした。問題行動に対して、教員一人で問題を抱えることなく、学級担任と副担任・学年全体・学校全体に報告・連絡・相談を素早くすること。特に初期対応が適切にタイミングよく行えるようにした。さらに、指導の経過等を職員朝礼や会議等で速やかに報告し、生徒の現状を全教職員が共通理解できるように努めた。また、いじめに関しては教師側の規律正しい学級づくりが大切であるという確認を行った。生徒に対して学校生活の基本事項として、挨拶・返事・言葉遣い・無言昇殿・授業の終始の挨拶の5項目を示し、指導の徹底を行った。年度当初に基本的指導について申し合わせをしたこと、教職員が日々の家庭訪問や電話連絡等により家庭との連携を密にし、細やかな指導を継続して行っていることが現在の校内の雰囲気を作り出し、落ち着いた学校生活を送れていることにつながっていると考える。 今年度、生徒指導の9項目中、A評価が8つ、B評価が1つという結果であった。中でも服装や頭髪、交通ルールなどの規範意識の向上をめざし日常的な指導を行う項目がB評価となったのは残念な結果であった。指導の難しい生徒や家庭が増える中、皆で生徒を育成していく意識をさらに継続して持ち続けて指導していくことが必要である。組織的な対応が不可欠な現状の中で、さらなる職員一人ひとりの意識の向上と教職員間の細部までの共通認識が課題である。
		6 部活動指導における生活指導の徹底を図る。	A	
		7 問題行動において、学級・部・学年から学校全体としての組織的な対応を行うとともに、保護者との連携を密にしてすすめる。	A	
	規律ある生活習慣の確立をめざす。	8 服装や頭髪、時間、交通ルールなどのきまりを守らせ、規範意識の向上をめざして日常的に指導を行う。	B	
		9 挨拶・返事・言葉遣い・無言昇殿など、全教職員が意識を統一して指導を行う。	A	
		10 遅刻指導などを通して、個々の生徒の心の動きに気づき、家庭訪問を行うなどきめ細やかな指導を図る。	A	
		11 いじめ問題の重大性を全ての教職員が認識し、学校長を中心に未然防止「いじめを生まない土壌づくり」を組織的に取り組む。	A	
いじめのない学校生活をめざす。	12 いじめの態様や特質、原因、背景、具体的な指導上の留意点などについて、職員会議や校内研修などの場で取り上げ、教職員間の共通理解を図る。	A		
	13 いじめ問題を、特定の教職員が抱え込んだり事実を隠したりすることなく、報告、連絡、相談を確実にし、学校全体で組織的に対応する。	A		
学習進路	基礎学力の充実と学習習慣の確立。	14 基礎基本に重点をおき、くりかえし取り組むことの大切さを教える。	A	本年度も普段の授業を通して、基礎基本を含めた指導を徹底し、基礎学力を高める努力をした。また可能な限り、放課後、追試や補習を行いながら、授業についてくるのが難しい生徒への対応を行った。宿題提出は粘り強く指導し、やらなければならないことを徹底させることで、宿題提出が習慣化してきていると感じている。ただその反面、宿題をやりきれない生徒や宿題を出せない生徒への対応が難しく、今後の課題である。 進路に関わっては1、2年生に管内高校の説明を担当から行い、「管内高校へ進学する」という本校の進路原則を示すことができた。また3年生には管内高校の情報をポスターで貼るなどし、生徒への意識付けに役立てることができた。個々の徳分に気づかせ、それをいかす方向で進路指導を試みているが、それがなかなか本人、保護者に伝わらない面もあるのが事実である。今後も粘り強く、関わっている教員すべてが、連絡を取り合い情報交換しながら、生徒一人ひとりに合った進路開拓ができるようにさらに取り組む必要がある。
		15 適切な内容の課題を与え、やりとげさせる指導を行う。	A	
	進路についての丁寧な指導をめざす。	16 管内学校などの進路情報を提供し、生徒の意識づけを図る。	A	
		17 個々の徳分に気づかせ、それをいかす方向で進路を考えさせる。	B	
研修	教員の授業力の向上をめざす。	18 研究授業を実施し、教員の授業技術を向上させる。	B	研究授業に関しては、新任の先生方の研究授業、さらに1教科で研究授業、2教科で公開授業を行い、教科研修を深めることができた。研修に関しては、昨年度に引き続き、発達障害の生徒についての職員研修を行った。講師の体験に基づく科学的見地による具体的な内容であり、さらに現在の本校生徒について具体的なアドバイスをもらえる教育相談の機会もあったため、大変有意義で教職員の理解を深めることができた。
		19 計画的な研修を行い、教員の継続的な資質向上を図る。	B	
人権教育	陽気ぐらし世界の実現達成に貢献しようとする実践力をもった人間育成をめざす。	20 いじめなど、不合理・矛盾に気づき、正しいことが主張できる態度を育てる。	A	人権教育指導計画に従い、人権教育講演会、人権作文、いちれつきょうだい学習に取り組み、生徒の人権意識を高めることができた。いじめ対策については、毎学期県教育委員会のアンケート、校内のアンケートを通して、早期発見、対策に努めた。今後もいじめを許さない土壌を、常日頃のクラスや学年運営の中で育てていきたい。世の中で報じられる今日の多様化しているいじめへの対応は、自尊感情やコミュニケーション力の向上、人を思いやる心を育てることを中心にさらに指導していく。進路についても自ら目を向けさせる粘り強い教育が求められており、さらに指導をすすめていきたい。
		21 差別やいじめなどを排除し、人の立場に立って考え、行動できる力を身につけさせる。	A	
		22 自分の進路を開拓し、社会の発展に努める力量を育てる。	B	
教育相談	支援を必要とする生徒に対して、教師、保護者、カウンセラーおよびオアシスフレンドが連携を密にしながらサポートを行い、生徒個々の能力を伸ばしていく。	23 支援を必要とする生徒の把握につとめる。	A	本年度も支援を必要とする生徒に対して、学級・学年・部活動とそれぞれの立場での対応連携がうまくとれていた。カンファレンスについては対象生徒の増加もあり、合同のカンファレンスが行えなかった。不登校については初期段階での対応がうまく機能し、不登校に至らずに済んだケースが何件もあったので、初期対応の重要性を再認識できた。オアシスルームでの活動が安定している生徒の活動については、もう少し具体的な内容が必要であり、課題である。生徒が抱える問題が多様多様化している今日、学級、学年、学校としての組織の把握対応が必要であるため、教科担当、学級担当以外に、特別支援担当教職員を配置し、より良い教育の質の向上を求める努力をしていきたい。
		24 支援を必要とする生徒へ、迅速かつ適切に対応し、必要に応じてカウンセリングにつなげる。	A	
		25 適切な支援を行うため、合同カンファレンスを行う。	B	
		26 支援を必要とする生徒への、有効な別室の活用を進める。	A	
美化	「天中は美しい学校です」と言える学校をめざす。	27 感謝の心で活動を実践するよう指導する。	A	本年度も昨年度に引き続きすべて項目でA評価であった。日々感謝の心で自ら進んで一生懸命清掃することを指導していくことが、美しい学校だと感じることができるとつながっていくため継続していきたい。また、綺麗な状態を維持できるような美化活動を今後考えていきたい。
		28 一生懸命行う素直な心と、自分で仕事を見つけ進んで努力できるように指導する。	A	
		29 美しい学校だと感じることができると環境をみんなで創る。	A	